

フジ・メディア・ホールディングス

CSRレポート 2019

FUJI MEDIA HOLDINGS

CSR REPORT

[2018年4月～2019年3月]



フジ・メディア・ホールディングス

フジ・メディア・ホールディングスは、
メディア・コンテンツ、都市開発・観光、その他の
〈3つのセグメント〉からなるメディアグループです。

3つのセグメント

メディア・コンテンツ			都市開発・観光	その他
フジテレビ	共同テレビ	ポニーキャニオン	サンケイビル	フジミック
ニッポン放送	FCC	フジパシフィックミュージック	グラビスタホテル&リゾート	フジキャリアデザイン
BSフジ	フジアール	フジゲームス	サカイビルネット	FCI
仙台放送	FMT	クオラス	サカイビルテクノ	
扶桑社	NEXTEP	ディノス・セシール		

主な子会社等

フジ・メディア・ホールディングスのCSR活動は、その長期的ビジョンの達成を図り、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者・株主・投資家・取引先等を始めとする国民の支持を頂き、フジ・メディア・ホールディングスの持続的な成長を確保するための活動です。

そのため、フジ・メディア・ホールディングスはグループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行いながら、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆さま等の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造をめざして、事業活動を通じた社会への貢献、地球規模の環境保全や身近な環境活動を積極的に進めていきます。

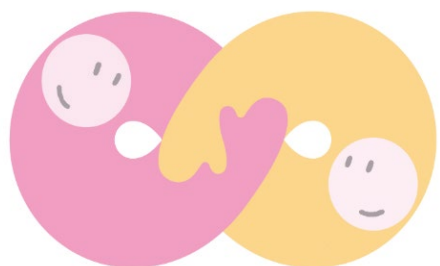
活動体制

フジテレビジョン/BSフジ/ニッポン放送/仙台放送/共同テレビジョン/フジクリエイティブコーポレーション / NEXTEP/フジアール/フジ・メディア・テクノロジー/ポニーキャニオン/フジパシフィックミュージック/ディノス・セシール/クオラス/サンケイビル/扶桑社/フジミック/エフシージー総合研究所/フジキャリアデザインの18社とフジ・メディア・ホールディングス本体の計19社で、CSR推進委員会を年に1回開催しています。またその下部組織・CSR推進連絡会議を年4回開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。



2018年度CSR推進連絡会議メンバー

CSRスローガン



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。

各社業態は異なりますが、
共通する思いは「創造する力」を通じて
人と人をつなぎ笑顔をつくること。

社会の一員として
どんな社会課題の解決に結びつけられるかを
常に考え、行動し続けます。

フジ・メディア・ホールディングスは 国連グローバル・コンパクトに署名しています

企業は利益を追求する以前に、良き市民であるべきという考え方のもと、責任のある「企業市民」として、世界で起きている様々な問題を解決するために行動することが求められています。国連グローバル・コンパクトは、国連が提唱する人権・労働・環境・腐敗（強要や贈収賄など）防止に関する普遍的な10原則を守ることを「約束」するものです。1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）において提唱されたもので、2019年3月時点で世界約160ヶ国・約13,500の団体（そのうち企業は約10,100）が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。日本国内では2019年3月時点で約300の企業・団体が署名しています。

WE SUPPORT



SDGs達成に向けた取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標は、貧困、環境、人権など地球規模の様々な課題を解決するための17の目標のことで、2015年に国連で採択されたもので2030年までの解決を目指しています。フジ・メディア・ホールディングスの中核子会社である(株)フジテレビジョンは、2018年12月に「SDGメディア・コンパクト※」に署名し、SDGsの課題解決にむけ、メディアの発信力を活かし現状を「伝える」ことで、世界を「変える」きっかけづくりに努めています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



※「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

本レポートではSDGsの17の目標に関連する活動にアイコンを付けました。

地球市民の一員として グループ一丸で 持続可能な社会の実現をめざす



株式会社フジ・メディア・ホールディングス

代表取締役会長

嘉納 修治

Chairman and
Representative Director
Shuji Kanoh

代表取締役社長

宮内 正喜

President and
Representative Director
Masaki Miyauchi

メディアの力を活かしたCSR

フジ・メディア・ホールディングスは、映像、音声、活字、広告、通販、不動産など幅広い事業を展開しているメディアグループです。私たちは、メディアの持つ公共的使命と社会的責任を常に認識し、広く支持されるコンテンツの制作・提供を目指すとともに、放送を中心とした様々な事業を通じて、文化・教育・環境など多様な分野に貢献することを目指しています。

フジ・メディア・ホールディングスのCSR推進体制が確立してから丸10年が経ちました。私たちは人と人をつなぐメディアとして、グループ各社の持ち味を活かし、人々の笑顔をつなげ、心をつなげることをスローガン（「つなげる笑顔 つながる心」）に掲げCSR活動を行っています。

グループ各社が力を合わせて行う活動の幅が広がり、結束が強まっているのを感じます。いざというときの結束力は私たちグループの大きな強みです。各社が一丸となって推進している共通の社会貢献活動も年々増えています。今年のCSRレポートでは、そうしたグループ共通の活動と、各社が本業を活かして取り組んでいる活動を二つに分けて掲載しています。是非お目通し頂き、私たちの事業活動にご理解とご支援を賜れば幸甚に存じます。

地球市民の一員として 私たちにできること

フジ・メディア・ホールディングスは、2018年4月に「国連グローバル・コンパクト※」に署名し、国連が推進しているSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向け積極的に行動することを世界に約束しました。

特に中核子会社であるフジテレビは、2018年7月よりレギュラー番組では世界初となるSDGsをメインテーマに掲げた番組『フューチャーランナーズ～17の未来～』をスタートさせました。当番組はニューヨークの国連本部で開催された世界テレビ・デーのイベントでプレゼンテーションを行う機会を得たり、政府主催の第2回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞をメディアとして初めて受賞するなど、私たちは本業を活かしたCSR活動を幅広く展開しています。

CONTENTS

PICK UP 5

初のSDGsレギュラー番組
『フューチャーランナーズ〜17の未来〜』

フジ・メディア・ホールディングス各社

■ 共通の活動

● ふくしま浜街道・桜プロジェクト	6
● サザエさん募金他	6
● ラジオ・チャリティ・ミュージックソン	7
● ブックフォースマイルへ寄付	7
● みんなのメダルプロジェクト	8
● ふくのわプロジェクト	8
● 合同清掃活動	9
● カレーdeチャリティ♪	9
● 省エネルギーの取り組み	9
● FNSチャリティキャンペーン	10
● 高松宮殿下記念世界文化賞	10
● 地球環境大賞	11

■ 各社の主な活動

子どもたちのために

● あなせんプロジェクト	12
● ハロー！どっこくん	12
● こどもミュージックプログラミング	13
● ウミガメ移動教室	13
● メガマウスザメ全身骨格標本展示	13
● 縄電車deのぞいてみよう！フジテレビ	14
● エコキッズ探検隊2018	14
● 武蔵野大学寄附講座	14
● スクールプロジェクト	14

被災地復興支援

● ずっとおうえんプロジェクト	15
● こども笑顔プロジェクト	15
● 東北・みやぎ復興マラソン	16
● 『東北魂TV』	16
● 災害報道－伝える責任－	17-18
『My Dream』『わ・す・れ・な・い』シリーズ 『ともに』『明日への羅針盤』『甦れ！東北の鉄路』 『バイキング』	

誰もが生きやすい社会のために

● 『PARA☆DO』	19
● HANDSIGN	19
● 『アキレアの橋』	19
● 『ニッポンチャレンジドアスリート』	19
● コンテンツにおけるバリアフリー	20
● アウェアネスカラーライトアップ	20

地球環境のために

● 環境番組を放送	21-22
『環境クライシス』『とくダネ!』 『プライムニュースデイズ』『アースウォーカー』	
● 廃材処理を通じた環境への取り組み	21
● ロハスフェスタ	22

マネジメント体制 / 財務サマリー 23

地球規模の課題を伝えること、そしてそれにより一人一人が考え、アクションを起こすきっかけを提供することはメディアとしての最大の役割です。

また、いよいよ間近に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックを前に、様々な取り組みも行いました。例えば「みんなのメダルプロジェクト」に参加して、不用になった携帯電話などの小型家電、放送機材を約12トンも回収、寄付しました。環境に配慮したメダル作りに貢献することもグループ共通の活動でした。

人と人をつなぐ

これからも、私たちフジ・メディア・ホールディングスは、人と人をつなぎ笑顔を作り、明るい未来を作ることに取り組んで参ります。本業を活かすことはもちろんのこと、持ち前の結束力を活かしグループ一丸となって、これまで以上に持続可能な社会の実現に貢献できるよう、創造する力を発揮して参ります。



※ 国連グローバル・コンパクトとは、企業・団体が社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための国際的な取り組みです。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。（詳しくは2ページを参照）

編集方針

本レポートはフジ・メディア・ホールディングス各社が2018年4月1日から2019年3月31日までに行ったCSR活動をまとめたものです。2018年度も、主たる事業である放送とエンターテインメントを活かして、多岐にわたる活動を行ってきました。本レポートはそれらを皆さまにご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。ご意見、ご感想などがございましたらお寄せ下さい。

✉ csr.ss@fujitv.co.jp

フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室

SDGsをテーマにした地上波レギュラー番組を放送

『フューチャーランナーズ～17の未来～』



- フジテレビ地上波（関東ローカル） 2018年7月～9月/2019年1月～3月 毎週土曜 17:25～17:30 放送
2019年4月～毎週水曜 22:54～23:00 放送
- BSフジ（全国） 毎週土曜 21:55～22:00 放送

テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、SDGsをテーマにしたミニ番組『フューチャーランナーズ』を制作・放送しています。課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで企画しました。

- 公式ホームページですべての放送を配信

<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

- ニュースサイト「FNN.jpプライムオンライン」
で放送内容を記事化して発信

<https://www.fnn.jp/programs/YMO0094>



放送内容

番組では、未来に目を向け自分たちが今できることに懸命に取り組む人たちをSDGsのターゲットとともに紹介しています。また、2018年3月からは英語字幕をつけて放送しています。



【例】産後の女性のケアを行う認定NPO法人「マドレボニータ」吉岡マコさん、貧困の解決に取り組むNPO法人自立生活サポートセンター「もやい」大西連さん、沖縄のサンゴを守る有限会社「海の種」金城浩二さん、元祖こども食堂を運営する「だんだん」近藤博子さん、フェアトレードを推進する株式会社「福市」高津玉枝さん、プラスチックを含むゴミ問題の解決に取り組む「荒川クリーンエイド・フォーラム」五十嵐実さん他

第2回「ジャパンSDGsアワード」 パートナーシップ賞を受賞！

2018年12月21日に総理官邸で表彰式が行われた第2回「ジャパンSDGsアワード」（主催：SDGs推進本部-本部長 安倍総理大臣）で、フジテレビの『フューチャーランナーズ』を通じた取り組みが、SDGsパートナーシップ賞（特別賞）を受賞しました。メディアとしては初めての受賞です。



国連本部での「世界テレビ・デー」 イベントに参加

2018年11月21日の「世界テレビ・デー」に合わせた国連のイベントで、映像コンテンツを通じたSDGsへの取り組み例として当番組がピックアップされ、ニューヨーク国連本部でプレゼンテーションを行いました。



各社共通の活動

フジ・メディア・ホールディングス各社が力を合わせて行っている社会貢献活動をご紹介します。

被災地に子どもたちが誇れる桜の名所を…

株式会社 デイノス・セシール



「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を継続支援



2019年2月24日相馬市で桜の苗木を植樹



広野町に植えた桜が開花

地震や津波、更に放射能被害を受けた福島県で、「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス（FMH）各社は2013年度から協賛しています。2018年度はデイノス・セシールの顧客やFMH各社などから合わせて桜153本分の寄付をし、これまでの植樹本数は1,175本になりました。



東北に春をお届けします。

デイノス・セシール

デイノス・セシールの復興支援活動「東北に春をお届けします。」では、被災地とそこに暮らす子どもたちの未来に向けた活動として、桜植樹および教育支援を実施しています。2018年度はデイノスウィズ冬号カタログからのお買いもの1回につき10円をこの活動に充てさせて頂き、654,780円を東北の未来を担う子どもたちに対して学びと自立の機会を提供する「ハタチ基金」に寄付しました。

PICK UP

● 西日本豪雨の被災地復興支援：「サザエさん募金」他

フジネットワーク（FNSフジテレビ系列局）では、7月に発生した西日本豪雨の被災地の復興を応援するため、「サザエさん募金」（7月9日から8月31日）を実施し、フジ・メディア・ホールディングス各社の協力も得て、**2億1,394万8,254円**を日本赤十字社を通じて被災地に寄付しました。

その他各社
による支援

- ・ ニッポン放送：岡山エリアにラジオ200台を寄贈
- ・ デイノス・セシール：呉市・倉敷市へ衣類4,800枚を寄贈した他、お客様参加コーズマーケティングによる寄付を実施



©長谷川町子美術館

視覚障害者のためのチャリティを44年間継続



「第44回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」



● 2018年のパーソナリティはKis-My-Ft2

「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は、ニッポン放送が1975年から行っている視覚障害者のためのチャリティ活動です。毎年クリスマス・イヴからクリスマスにかけての24時間の特別番組を中心に、ラジオを通じて募金を呼びかけるもので、今回が44回目。

毎年各社でサポート！

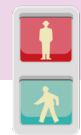
フジ・メディア・ホールディングスでは、各社共通のCSR活動として、毎年このイベントでお手伝いをしています。今回もグループ内の14社から合わせて26人が街頭募金などのお手伝いをしました。募金のお手伝いは、東京ミッドタウン日比谷の6階とニッポン放送本社で実施。年末の買い物客で賑わう中、たくさんの方が募金をしてくれました。



寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」「立体コピー機」など多数の視覚障害者用教育機器などに使われます。

- 実施日：2018年12月24日正午～25日正午
- パーソナリティ：Kis-My-Ft2
- 募金受付期間：2018年11月1日～2019年1月31日

これまでに **3,131**基の「音の出る信号機」が設置されました。



最終募金額 **8,815万 8,161円** これまでの合計金額 **45億8,147万8,178円**

PICK UP

● ブックフォースマイルへ寄付

認定NPO法人「ブリッジフォースマイル」による書籍の寄贈を通じて児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援するプロジェクトに賛同しています。不用となった書籍、本等を株式会社バリューブックスへ売却。売却代金はNPO法人ブリッジフォースマイルへ寄付され、児童養護施設を巣立つ子どもたちの自立支援に充てられています。



2018年度は、5社から合計**4,135冊**が寄付され**18万6,363円**が支援にまわりました。

※2014年度からの合計 20,298冊、寄付総額 **93万8,390円**

※ 単行本15冊で進学を希望する若者1人に1時間分の勉強時間をプレゼントできます。（時給750円換算）

東京オリンピック・パラリンピックを応援

2020年に東京で開催される東京オリンピック・パラリンピック。1964年以来56年ぶりに日本で開催されるスポーツの祭典に向け、地域とも連携しながら様々なレガシーを残せるよう取り組みを始めています。

「都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト」に参加



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに参加。フジ・メディア・ホールディングス各社に呼びかけをし、不用になった携帯電話などの小型家電、放送関係機材などをメダルプロジェクトに寄付しました。

メダルプロジェクトへ寄付した総重量 **12 t 896 kg** (2019年3月末終了)

産経新聞社主催：パラスポーツ支援

「ふくのわプロジェクト」に各社が協力



2018年12月20日、フジテレビモールで「ふくのわプロジェクト」の回収イベントを開催しました。このプロジェクトは、不用になった衣類を回収し専門業者に買い取ってもらい、その収益をパラリンピック競技団体に寄付するものです。ダイバーシティ東京にオフィスを構えるフジ・メディア・ホールディングス各社も衣類を提供。ディノス・セシールも協力し、チャリティセールも開催しました。（売り上げ6万600円）この日一日で集まった衣類は**453kg**となりました。

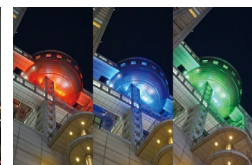
PICK UP

● オリパラ2年前をライトアップでアピール！

フジテレビは、フジ・メディア・テクノロジーとともに、東京オリンピックまであと2年となる2018年7月24日に、五輪の5色を彩ったイルミネーションを実施しブームアップに貢献しました。また、東京パラリンピック2年前の8月25日の夜にも、「アギトスカラー」の赤・青・緑のライトアップを実施。臨海副都心エリアにある自由の女神像、パレットタウン大観覧車、東京ビッグサイトとも連動しました。



自由の女神像



フジテレビ本社ビル球体展望室

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するとともに、企業としても環境に配慮した活動を行っています。

フジ・メディア・ホールディングス合同清掃活動（年3回）

毎年3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動を行っています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに19回実施。今ではすっかり定着し、参加者は毎回70人を超えています。ホールディングスの“結束力”を感じるとともに、日ごろあまり顔を合わせない人とのコミュニケーションの場にもなっています。



2018年10月10日第18回清掃活動には17社から77人が参加、70リットルのゴミ袋26個分のゴミを回収しました！

「カレーdeチャリティ♪」

7月10日の合同清掃活動の後に、初の試みとして「カレーdeチャリティ♪」というイベントを行いました。夏の暑さと清掃の疲れを吹き飛ばそうと本場のスパイスを使ったカレーをフジ・メディア・ホールディングスグループ各社の社員・スタッフ約100人が食しました。このカレーは認定NPO法人ESAアジア教育支援の会のオリジナルスパイスで作られており、このカレーを食べることでバングラデシュやインドの子どもたちの教育支援につながります。



PICK UP

省エネルギーの取り組み

● フジ・メディア・ホールディングス 全社共通ポスターによる クールビズ・ウォームビズの実施

毎年夏のクールビズと冬のウォームビズの共通ポスターを作成し、各社に掲示しています。



世界の子どもたちの貧困解決に向けて

FNSチャリティキャンペーン



FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。フジ・メディア・ホールディングス各社も募金活動に協力しています。45年に及ぶ活動の募金総額は約43億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

● 第45回『ロヒンギャ難民 in バングラデシュ』

2018年度は、バングラデシュのキャンプで暮らすロヒンギャ難民を支援しました。120万人を超える彼らの多くが、ミャンマーでの差別や迫害によるトラウマを抱えたり、病気が飢えに苦しみながら、明日の見えない生活を続けています。また劣悪な環境下、下痢や栄養不良に陥っている子どもが数多くいます。この状況を伝えるため、取材班は2週間あまりにわたり現地を取材、情報番組『とくダネ!』で放送し、支援を呼びかけました。また、全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動を行いました。



【放送実績】

- フジテレビ『とくダネ!』内で山中章子アナによる報告
2018年5月10日・11日放送
- BSフジ
2018年8月25日・26日・9月1日放送
- CS TWO/NEXT
2018年10月4日～2019/1月23日の間13回放送



【イベントにおける募金活動】

- 山中章子アナによる現地取材報告講演会(大阪、東京、広島)
- 「ふるさと祭り東京2019」会場 全国地酒ブース
- 「キュリオス」会場内「くるくる募金箱」
- その他系列各局イベント

2018年度の最終寄付総額 8,454万3,302円

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与

フジサンケイグループの取り組み

高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞
PREMIUM IMPERIALE
IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志に基づき創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。30回目を迎えた2018年度の授賞式は、10月23日、常陸宮同妃両殿下をお迎えし、東京・元赤坂の明治記念館で行われ、常陸宮殿下から受賞者に顕彰メダルが授与されました。また、若手芸術家奨励制度には、シェイクスピア・スクールズ財団が選ばれました。授賞式に先立ち、同日午前、天皇后両陛下（現上皇皇后両陛下）、常陸宮同妃両殿下ご臨席のもと、世界文化賞30周年記念レセプションが開かれました。創設以来の受賞者数は30ヶ国・154人となり、フジ・メディア・ホールディングス各社は同賞の趣旨に賛同し、創設以来サポートしています。

【第30回 高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者】

- 絵画部門：ビエール・アレシンスキー氏（代理：ミシェル・ドラゲ氏）
- 彫刻部門：中谷芙二子氏
- 建築部門：クリスチャン・ド・ボルザンバルク氏
- 音楽部門：リッカルド・ムーティ氏
- 演劇・映像部門：カトリヌ・ドヌーヴ氏



©日本美術協会/産経新聞

■ 『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送 フジテレビ2018年10月31日 24:35～25:35 放送 / BSフジ 2018年11月4日 17:00～18:00 放送

※詳しい内容につきましては高松宮殿下記念世界文化賞公式ホームページをご覧ください。 <http://www.premiumimperiale.org/ja/>

地球温暖化防止や環境保全に熱心に取り組む企業などを表彰

地球環境大賞

地球環境大賞

フジサンケイグループの取り組み

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金（WWF）ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。



秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われた授賞式

2018年4月9日には第27回の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。これまでの受賞企業・団体は269に及びます（2018年4月現在）。フジ・メディア・ホールディングス各社は、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。

● 第27回受賞企業・団体

地球環境大賞 積水ハウス株式会社

環境・防災・地域活性化に貢献する「東松島市スマート防災エコタウン」の取り組み

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済産業大臣賞 ・ 環境大臣賞 ・ 文部科学大臣賞 ・ 国土交通大臣賞 ・ 農林水産大臣賞 ・ 日本経済団体連合会会長賞 ・ フジサンケイグループ賞 ・ 奨励賞 | <ul style="list-style-type: none"> 九州電力株式会社 東洋インキSCホールディングス株式会社 国立大学法人名古屋大学 株式会社日立製作所 鉄道ビジネスユニット サッポロホールディングス株式会社 日本軽金属ホールディングス株式会社 YKK株式会社 東芝ライテック株式会社 出雲西高等学校 インターアクトクラブ環境福祉コース |
|---|--|



積水ハウス株式会社 阿部俊則会長

※詳しい内容につきましては地球環境大賞公式ホームページをご覧ください。 <http://www.fbi-award.jp/eco/>

地球環境大賞特別番組

『地球環境大賞2018 生活を激変させた平成の新技术』

地球環境大賞受賞企業・団体の新技术をわかりやすく紹介する特別番組を放送しました。

【主な取材内容】

- ・ 消費電力の大幅削減に成功した調光可能なLED電球の開発現場
- ・ 豊洲新市場における屋上緑化や太陽光発電
- ・ 冷凍庫内の壁に使用される世界初の断熱パネルの秘密
- ・ タイでタピオカの製造過程で生まれるデンプンかすからエタノールを作る技術
- ・ 次世代車両システム A-train
- ・ 東日本大震災で被害にあった宮城県東松島市に誕生した日本初の防災エコタウン
- ・ 島根県宍道湖で環境保全に取り組む高校生の活動に密着



- ・ フジテレビ(関東ローカル)
2018年6月16日 15:30~16:30 放送
- ・ BSフジ
2018年6月23日 15:00~16:00 放送

各社の活動

フジ・メディア・ホールディングス各社が行っている社会貢献活動をご紹介します。

子どもたちのために

Support for the Next Generation



本業を活かした出前授業などを実施

「あなせん」プロジェクト

フジテレビ / 扶桑社

● “伝えるプロ”によるコミュニケーションの授業を継続

携帯電話やスマートフォンなどの普及により、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。「あなせん」プロジェクトは、話し方、聞き方、伝え方の「コツ」をフジテレビのアナウンサーが教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会を提供しています。Face to Faceのコミュニケーションを大切にしながら「伝え合う力」は「生きる力」につながると信じて2005年から活動を継続しています。



オリジナルテキストは扶桑社と協働して制作



- 対象：小学校3年生～6年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア：フジテレビの放送圏内（関東1都6県）

2018年度は、
14の学校で**1,207**人を対象に実施

2005年からの累計 **約16,950**人が受講
(2019年3月末現在 / イベントでの開催分は含まず)

食育出前授業「ハロー！どっこくん」

フジテレビ / エフシージー総合研究所

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせやうんちのキャラクター「どっこくん」体操などで構成された約40分の楽しいプログラムで、2010年にエフシージー総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働してスタート。被災地を中心に全国で展開しています。



2018年度は、
17ヶ所に伺い**約2,600**人と出会いました！

2010年2月から合計で
178ヶ所に伺い**約21,300**人を対象に実施
(2019年3月末現在)

「ハロー！どっこくん」ホームページ <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

プログラミングで曲作りにチャレンジ！

ポニーキャニオン

「こどもミュージックプログラミング」



「こどもミュージックプログラミング」は、2020年より全国小中学校でプログラミング教育が必修となるのを受けて、レコード会社として「音楽」という切り口でプログラミングを体験できる機会を提供しようと2017年からスタートしたミュージックプログラミング教室です。音楽という身近なジャンルを通じて楽譜が読めないお子さんでもタブレットを使って楽しく曲作りが体験できます。

2018年度は夏開催の「1DAY教室」で東京、千葉、神奈川の3県で7月16日～8月19日まで6回開催、小学校2年生以上の子どもたちが対象でオリジナルサマーソング作りに挑戦しました。また初めての「冬講座」を12月2日にポニーキャニオン本社で開催し、16小節の曲作りに初チャレンジ！3月の「春講座」では動画作成ソフト「スクラッチ」を使用して、自作の曲に合わせてキャラクターを動かす動画作成も指導しました。将来のクリエイターが育つきっかけ作りになればと思ひ、今後も継続していく予定です。

[夏・冬・春講座 計9回実施]



●子どもたちの感想

「楽しかった！またやりたい！」
「ボーカロイド曲が好きなので、自分も曲作りをする事ができてとても嬉しかった」

●完成曲を聴いた保護者の感想

「短い時間でもしっかりとした曲が完成して驚いた」「学校では体験できないことができて良かった」

鴨川シーワールド

「ウミガメ移動教室」

鴨川シーワールドでは、2002年より東条海岸を中心に、ふ化に適さない場所に産卵されたアカウミガメの卵を保護し、生まれた子ガメを自然に近い形で放流する活動を行っています。また、アカウミガメの子ガメと飼育員が学校を訪問する「ウミガメの移動教室」を千葉県内の学校を対象に行っており、子どもたちに自然保護への理解や命の大切さについて教えています。

[2018年度16回開催]

グランビスタ ホテル&リゾート



世界初「メガマウスザメ」全身骨格標本を一般公開

2017年5月に千葉県館山市洲崎沖の定置網に世界的にもめずらしい大型のメガマウスザメが迷入しました。保護する前に息絶えましたが、希少なサメであることから調査研究に役立てたいと、鴨川シーワールドで引き取り、世界で初めて全身骨格標本の製作に成功。2018年12月より一般公開しました。北海道大学・仲谷一宏名誉教授をお招きし、骨格に直接さわることができる特別レクチャーも行いました。

[2018年12月7日～]



全長約5.4メートル、体重1.2トンのメス

夏休み特別企画

フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー

「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」を実施

通常は学校単位で行っている見学ツアーを、夏休み特別編「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」として開催しました。2日間・4回のツアーに840人の応募があり、177人が当選。通常の見学案内に加え、本番後の『バイキング』のスタジオでカメラに触れたり、スタジオ副調整室の機材を実際に操作するなど、テレビ技術の一端を体験することでテレビ局の仕事を知ってもらいました。また株主様向けにも3回開催しました。[2018年8月6日・16日]



大手町・丸の内・有楽町エリアの企業がサポート

「エコキッズ探検隊2018」

子どもたちが夏休みにいきいきと遊びながら学び、作り、様々な体験ができる「エコキッズ探検隊」に協賛しています。14年目を迎えた今回は「まちめぐりワークショップ」として、鴨川シーワールドで「海の環境を学ぼう」をテーマに水族館見学ツアーを実施しました。東京駅発のツアーを組み、飼育員の方から海の生き物の生態を教えて頂き、普段中々見られないバックヤードを見学しました。

[2018年8月7日]

サンケイビル



BSフジ×武蔵野大学寄附講座

「未来型都市とメディア」

東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に、2016年からBSフジと有明にキャンパスがある武蔵野大学が、講座運営を基本として臨海の地域づくりと相互の発展に寄与する包括協定を締結。3年目となる2018年度は、BSフジを窓口として、フジテレビ関連の番組制作、編成、営業、技術、経営、CSRなど幅広い経験を持つ現役・OBたちが講師を務め、メディアの現状や体験談、未来の放送予測までを200人近くの学生に講義しました。

[2018年9月26日～2019年1月23日 毎週水曜日 全16回]

BSフジ



楽器に触れたことのない子どもたちに音楽の素晴らしさを

ヤマハ株式会社「スクールプロジェクト」

クオラス

ヤマハ株式会社が開示している音楽教育への支援活動「スクールプロジェクト」をより多くの方に知って頂くために、ウェブ用動画、CMを提案・制作しました。この活動は、新興国を中心に現地の教育機関と連携し、楽器に触れたことのない子どもたちに楽器演奏の楽しさを体験してもらうというもので、2015年から取り組んでいます。



オリジナルの被災地復興支援活動を展開

「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビ

フジテレビ
ずっとおうえん。
プロジェクト



フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続しています。被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、被災地に笑顔を届け“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。

2018年度は東日本大震災の復興支援の一環として「東北・みやぎ復興マラソン」でサザエさん一家のサポートをしたり、西日本豪雨で被災した広島県、岡山県、愛媛県で『サザエさん』の上映会や食育出前授業「ハロー！どっこくん」を開催、また北海道胆振東部地震で大きな被害を受けたむかわ町でも『サザエさん』の上映会を開催しました。



2018年度実績 **15**ヶ所 約**2,880**人を対象に実施

2011年
からの累計 **202**ヶ所 約**24,710**人を対象に実施
(2019年3月末現在)

テレビ美術の力で被災地に笑顔を

「こども笑顔プロジェクト」

フジテレビ / フジアール

このプロジェクトは、フジテレビ美術制作局と美術関連会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地支援活動です。2018年度は、11月3日に福島県川内村にて開催。川内村は、福島第一原発から直線距離にしてわずか21km、山ひとつ越えた向こうにあります。避難解除から2年、住民帰還率はおおよそ8割で、地震や津波による直接的な被害の記憶が徐々に風化していく中、二次災害とも言える原発事故の影響は未だ大きく、改めて「被災」という言葉の重みを考えさせられました。



7回目となる「こども笑顔プロジェクト」は、2年前から開催されている村おこしの一環である「かわうち秋祭り」とコラボしました。今回も多くの子どもの笑顔を見ることができ、お祭りも盛り上げることができました。

[2018年11月3日 開催]



本物のテレビ美術セットを設営



パカ殿に扮してポーズ！



のこぎり体験

復興の“いま”を体感

仙台放送 / BSフジ / フジテレビ

「東北・みやぎ復興マラソン2018」

2017年から始まった仙台放送主催の「東北・みやぎ復興マラソン」は復興への願いを込めた大会です。東日本大震災の浸水エリアがマラソンコースとなっていて、被災地の今を全国に発信しています。

2018年も、全国から約1万5,000人のランナーが集結、被災地の復興をマラソンを通じてアピールしました。この模様は仙台放送とBSフジで生中継しました。[2018年10月13日・14日]



- 仙台放送
『東北・みやぎ復興マラソン2018 開幕スペシャル』[2018年10月13日 10:25~11:09 放送]
『東北・みやぎ復興マラソン2018 特番』[第1部 2018年10月14日 9:30~10:00 / 第2部 2018年10月14日 13:30~15:00 放送]
- BSフジ
『東北・みやぎ復興マラソン2018~ともに、つなぐ~』[2018年10月14日 13:30~15:00 放送]



フジテレビは、特設ステージでサザエさん一家のイベントを開催した他、車いすジョギング、親子ペアラン、フルマラソンでサザエさん一家をサポートし、大会の盛り上げに貢献しました。

BSフジ『東北魂TV』 第186回 密着！初マラソン

BSフジ

BSフジが放送している『東北魂TV』は、上記の大会を全面的に応援しています。今回はレギュラーメンバーのマギー審司、トミドコロがフルマラソンに挑戦。初挑戦となるマギー審司は十分な練習ができなかったものの、家族と他のメンバーの声援を受け、苦しみながらも5時間32分で42.195kmを完走しました。番組では彼らの初練習から感動のゴールまでを半年間密着し、放送しました。[2018年11月11日放送]



● サンドウィッチマン「東北魂義援金」を岩手県に届ける

『東北魂TV』は、“笑いで東北を、日本を元気に！”をテーマに、サンドウィッチマンやマギー審司、鳥居みゆきなど東北出身のお笑い芸人が“東北魂”として一挙集結、これまでもチャリティグッズの販売やチャリティライブ等の活動を通じて東北の復興を盛り上げてきました。『東北魂TV』を立ち上げたサンドウィッチマンの伊達みきおさんと富澤たけしさんは、2019年3月6日に岩手県庁を訪問し、東日本大震災の被災者・被災地を支援する「東北魂義援金」921万611円を岩手県・達増拓也知事に手渡しました。2人は支援者へ感謝の気持ちを述べ、今後の支援継続を呼びかけました。[毎週日曜 23:00~23:30放送]



東日本大震災の被災者・被災地を支援する「東北魂義援金」8年間の義援金総額 **4億2,044万4,156円**

災害報道 — 伝える責任 —

公共性の高いメディア企業にとって、震災などの災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。2018年度も報道番組・情報番組にて災害のニュースを伝えるとともに、東日本大震災から8年、熊本地震から2年経った現状や、今なお残る問題点などを伝えました。

ニッポン放送報道スペシャル『My Dream』

ニッポン放送

平成30年日本民間放送連盟賞ラジオグランプリ受賞
平成30年度文化庁芸術祭ラジオ部門ドキュメンタリーの部 大賞受賞

東日本大震災の取材を進める中で出会った、視覚障害のある小椋汐里さん（当時中学1年生）を長期取材したドキュメンタリー番組。会津若松の小学校で被災した彼女は、その後福島市の福島盲学校（現福島視覚支援学校）に進み、現在は東北学院大学の英文科の学生として、通訳や英語教師を目指して勉学に励みながら、自分の将来を夢見て積極的に活動しています。



番組では、彼女の中学1年当時から今までを紹介しつつ、大学関係者や仕事を持つ視覚障害者、彼らを支える人々を丁寧に取材。障害を抱えながら夢を描く女子大生の姿を追いながら、働く人々の苦悩なども交え、視覚障害者への理解や意識をより深めました。

[2018年5月27日 25:30～26:30 放送]

東日本大震災を映像と証言で検証

フジテレビ

『わ・す・れ・な・い～平成最後の証言～』



東日本大震災を膨大な数の映像と証言で検証し続けてきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ。震災から8年が経過した2019年は、ラグビーW杯の開催地にもなっている、岩手県釜石市に焦点を当てました。今回の取材で、釜石では防波堤が津波の威力を食い止めていたという研究結果が明らかになりました。

本当の津波の脅威はどれほどのものだったのか、改めて映像を検証。また被災の貴重な証言から避難行動の「ロス」が教訓として浮き彫りになりました。

次世代に語り継がれるべき新たな「証言」に加え、番組独自の映像検証を交え、命を守るための行動を考えました。次の時代に残したい平成最後の震災の教訓です。

[2019年3月11日 15:50～16:50 放送]



震災直後からこれまでに96回放送

東日本大震災特別企画『ともに』

『ともに』は、宮城の今を生きる人々、「復興」を支える人々やその活動を紹介します。

被災した人たちが今どんな気持ちで、何をみつめているのか。日常を取り戻すために、どんな人たちがどんな想いで取り組んでいるのか。その道のりを「ともに」辿っていきます。

[月1回土曜日放送]



仙台放送



『明日への羅針盤 ～震災から8年 目指した復興は～』

3月11日、岩手、宮城、福島の本系列3局で合同特別番組を放送しました。2019年は、「伝統」をテーマに、震災前、宮城・山元町中浜地区で代々受け継がれてきた「中浜神楽」にスポットを当て、津波で笛や太鼓などが流され存続が危ぶまれる中、地域の小学生による「子ども神楽」として復活させた男性などを取材。東日本大震災直後から被災地支援を続けるラジオパーソナリティー・やまだひさしさんとともに、3県のアナウンサー、そしてゆかりのゲストを招き放送しました。これまでに3回放送。

[2019年3月11日 15:50～17:50 放送]



『甦れ！東北の鉄道2019 リアス線163キロ全線開通 三陸鉄道の2936日』

BSフジでは東日本大震災直後から被災地に入り、東北の鉄道の被害状況取材。2012年3月『甦れ！東北の鉄道』と題して放送し、その後被災路線の取材を積み重ね、毎年シリーズで放送してきました。シリーズ8回目となる今回、番組では、山田線の鉄道復旧までの経緯を振り返りながら、三陸鉄道リアス線全線開通までの道のりに完全密着。東日本大震災から8年を経て鉄道が復旧した町と鉄道が消えた町の変貌と住民の暮らしの変化に迫りました。

[2019年3月31日 18:00～19:55 放送]

BSフジ



『バイキング』 坂上忍 お手伝いの旅

『バイキング』（月～金 11:55～13:45 放送）では、坂上忍さんが東北の被災地を訪問してお手伝いする旅を5日間にわたって放送。3年目となったこの企画、今回は岩手県に赴き、津波の被害にあった漁港での「わかめ採り」のお手伝いや3月に閉校する小学校で授業を行ったり、被災を乗り越えて結ばれたカップルの結婚式にサプライズ登場！更に全国大会に挑む少年野球チームとふれあい、勝負の結果、校庭に土をプレゼント。更に、リアス線の全線開通を控えた三陸鉄道に乗車し、地元企業の方々と名産品を味わいながら心を通わせました。

[2019年3月4日～8日 放送]

フジテレビ



パラスポーツの魅力を発信！

『PARA☆DO!』

『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、いきいきと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラー番組では、2020をめざすアスリートはもとより、様々な「想い」を抱く「人」に焦点をあてた物語を発信してきました。また2018年度はイベントでも東京都・川崎市・渋谷区などのご協力を得て、直接パラアスリートの想いを伝える機会を作り、より身近に感じて、考えて頂く場を提供しました。2020に向けパラスポーツの熱をより多くの方々に届けられるよう、今後も様々な形で情報発信を行っていききたいと思います。

- 『PARA☆DO!』ポータルサイトでは、アーカイブ、SNSなども展開 <https://www.fujitv.co.jp/sports/parado/>

フジテレビ

PARA☆DO!
~その先の自分へ~

毎週水曜日22:54~23:00放送
(関東ローカル)
2019年3月末放送終了



音楽を通じて手話を身近に

『HANDSIGN』手話ダンスを広げる活動が14年目に突入

歌、ダンス、手話という新しい表現方法で伝える手話パフォーマー「HANDSIGN」は、手話ダンスを通じて若い世代に手話を広める普及活動を地元平塚市を中心に全国各地で行っています。これまでに約300校でライブやワークショップを実施。平塚市の「手話ダンス教室」は累計約1,000人が受講しました。実際に聾者の子も聴者の子も一緒に楽しみながら練習！手話が言語として当たり前存在する社会を目指して活動を継続しています。

『HANDSIGN』はフジテレビ『PARA☆DO!』のオフィシャルアーティスト、東京都パラスポーツ応援プロジェクト『TEAM BEYOND』のオフィシャルメンバーです。

フジパシフィックミュージック



『アキレアの橋 ~2020遥かなる東京へ~』

オリンピック・パラリンピックを目指すアスリートや関係者たちを長い歳月をかけて追いつける番組。アスリートたちの中には、脚光を浴び晴れの舞台に立てる者もいれば、悔し涙を流す者もいるかもしれない。そんな彼ら、彼女たちの報われた努力と同様に、報われなかった努力も映像で伝えています。

[2018年度は、4月29日、9月23日、2月3日、3月3日の4回放送]

BSフジ



『ニッポンチャレンジドアスリート』

障害者スポーツの魅力を伝え、応援・啓蒙するラジオ番組『ニッポンチャレンジドアスリート』の放送を2015年4月より継続しています。イベントでのブース展示、試合観戦なども実施し、パラスポーツを応援しています。[毎週月曜~金曜 13:42~13:47 放送]

ニッポン放送



コンテンツにおけるバリアフリー

放送におけるバリアフリー

フジテレビ / 共同テレビ / FCC / フジミック

● 字幕放送

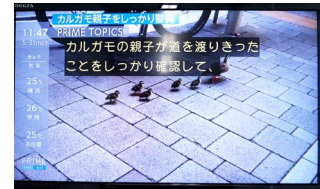
フジテレビでは、7時～24時のすべての収録（生放送以外）番組に字幕を付与しています。2017年度は、字幕付与可能時間に対して100%の付与率を達成しました。

● 解説放送

主に目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために、副音声を使って画面の解説を行うもので、セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう努めていきます。

● 字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるように、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。



● 手話放送

『テレビ寺子屋』
【毎週日曜5:10～5:40】

● 解説放送番組

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』、金曜や土曜の単発ドラマや邦画など

映画におけるバリアフリー

フジテレビ

2018年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました（後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付けています）。また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増え、2018年度は以下の8作品に付与しました。

● 音声ガイドとは？

映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障害者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、「音声ガイド」の役割です。

2018年度に音声ガイド付き上映を行った作品

『いぬやしき』『万引き家族』『劇場版コード・ブルー』『累』『人魚の眠る家』『ドラゴンボール超 ブロリー』『マスカレード・ホテル』『翔んで埼玉』

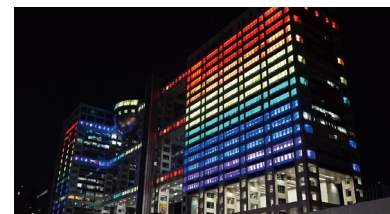
フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー / 仙台放送

アウェアネスカラーライトアップ

ライトアップを活用し社会課題への支援の意思を発信しています。乳がん予防のピンクリボンや世界平和の白等、街全体をアウェアネスカラーで照らすことで、社会課題を「知ってもらう」きっかけを提供しています。多様な価値を認め合うダイバーシティ社会をめざして臨海副都心全域で実施しています。

実施施設・企業：東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイト、レインボーブリッジ、パレットタウン大観覧車、自由の女神像、デックス東京ビーチ、乃村工芸社

フジテレビ系列仙台放送の大年寺山送信所鉄塔「仙台スカイキャンドル」でもLED照明による様々な色のライトアップで社会課題への支援を表すとともに、LEDの使用で、消費電力は従来の約20%と省エネにも貢献しています。〔2012年6月～継続〕



LGBTを含むあらゆる差別をなくす6色レインボー



東日本大震災の鎮魂と復興への願いを込めた希望のともしび

環境をテーマにした番組を放送

環境問題がクローズアップされる中、2018年度は数々の番組を通じて気候変動や海洋プラスチック問題などについて伝えました。

『環境クライシス2 ～凍てつく大地の環境難民～』

フジテレビ

2017年にスタートしたドキュメンタリー番組『環境クライシス』は、世界で急速に進む気候変動をテーマに過酷な生活環境を強いられている子どもたち取材。第2弾ではモンゴルを舞台に、夏の干ばつと冬の寒雪害が立て続けに起こる自然災害により、伝統的な生活を追われようとしている遊牧民の姿や、深刻な大気汚染に苦しむ首都ウランバートルで慣れない生活を強いられる元遊牧民＝

“環境難民”（気候変動による自然環境の変化で、住む土地や家を奪われ、避難を強いられた人々）を紹介しました。またこの作品は、ポーランドのカトヴィツェで2018年12月に開催されたCOP24のジャパン・パビリオンで上映されました。

[2018年5月26日 15:30～16:30 放送]



『環境クライシス3 ～水没するアジア巨大都市の環境難民～』

国連は「2018年に地球上で最も多くの被災者（3,500万人）をもたらした災害は洪水だ」と報告しており、「気象崩壊の年」と気象学者らによって名付けられました。こうした状況を受けて、第3弾では、このまま地球温暖化が進んだ場合、アジア太平洋地域で最も洪水災害が発生すると言われていたインドネシアの首都ジャカルタ取材。地盤沈下と海面上昇、近年頻発している豪雨による都市水害・洪水被害にさらされているインドネシアの“環境難民”が、生活を奪われつつもたくましく生き抜こうとする姿、その子どもたちの生活を放送しました。

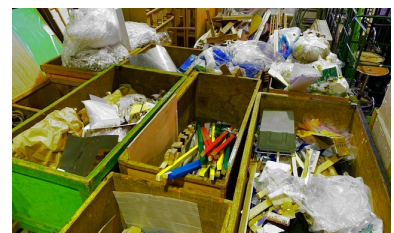
[2019年3月23日 15:30～16:30 放送]



リサイクル・省資源へ取り組み

● 廃材処理を通じた環境への取り組み

番組セットなどを廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せず、全番組の廃材をまとめて廃棄事業者へ直接委託する「一括処理」を2010年から行っています。排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。



フジテレビ / フジアール



『とくダネ!』

「世界の危機が伝える日本の未来」と題し社会課題を特集

フジテレビ

朝の情報番組『とくダネ!』（月～金 8:00-9:50 放送）で、フジテレビ開局60周年企画として「世界の危機が伝える日本の未来」と題し、5日間に渡って世界で起きている諸問題について放送しました。山崎夕貴キャスターやコメンテーターの古市憲寿さん、古坂大魔王さんなどが現場を訪れ、格差社会、水不足、地球温暖化で沈む島、世界のゴミ問題などについてレポートし、その深刻さを視聴者に届けました。

[2019年3月25日～29日放送]



『プライムニュースデイズ』 「地球環境SOS」シリーズを放送

2018年はかつてないほど「地球環境」が注目されました。夏の記録的な猛暑、甚大な被害をもたらした豪雨や大型台風、更に多くの国や地域、企業によるプラスチック製品規制の動き。「気候変動」「環境汚染」…これらは我々の生活スタイルにまで影響を及ぼしかねない問題です。『プライムニュースデイズ』ではポーランドでのCOP24の開催に合わせて、国内外の環境に関する現状や最新の取り組みを放送しました。環境保全の道のりは、まず知ることが第一歩と考えます。視聴者に考えるきっかけを提供すべく、欧州やアメリカなどの海外支局とも連携し、6回シリーズで特集しました。

[2018年12月3日～5日、12月11日～13日放送]



『アースウォーカー』

滝川クリステルさんが生命の多様性と神秘に触れる大型ドキュメンタリーの9作目。今回のテーマは「水」とは何か、「川」とは何か。その答えを求めて、世界の屋根・ネパールのヒマラヤ山脈へと向かいました。高度4,000mの氷河に始まり、上流から下流へと急流をラフティングで下りながら、水が周囲に住む人々の生活そして流域に暮らす生き物たちにどんな影響を与えているかを伝えました。

・フジテレビ『アースウォーカー』氷河からガンジスへ…豊かな水をたどる冒険 2018年12月31日 6:00～7:00 放送

・BSフジ『アースウォーカー』ヒマラヤ「氷河の一滴」を追え! 2019年1月1日 19:00～20:55 放送

フジテレビ / BSフジ



家族で楽しめるイベントで楽しいエコライフを提案

● 「ロハスフェスタ東京2018」の企画・運営

「みんなが身近なことから楽しんで実践できるロハス・エコ」を提案する環境保護イベントの企画・運営に参画しています。環境省や東京都、練馬区なども後援し、来場者に環境に対する意識向上を図りました。これまでに東京で計10回開催しています。

[2018年9月15日～17日開催]

クオラス



マネジメント体制 Management

フジ・メディア・ホールディングスのコーポレート・ガバナンス・内部統制・コンプライアンスにつきましては、以下のホームページのマネジメント体制をご覧ください。

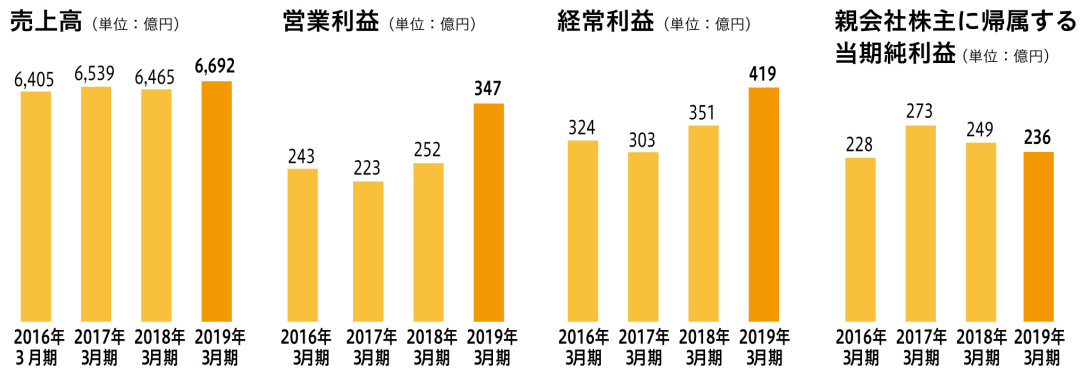
コーポレート・ガバナンス	https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance.html
内部統制	https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance1.html
コンプライアンス	https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/compliance.html

財務サマリー Financial Summary

業績ハイライト [平成30年4月1日 - 平成31年3月31日]

ポイント

- 売上高は、メディア・コンテンツ事業が減収となったが、都市開発・観光事業は増収となり、全体で増収。
- 営業利益は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに増益となり、全体で増益。
- 経営利益は増益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益。



セグメント別売上高構成比 (%)



※このグラフの各構成比は、セグメント間の内部売上高等の調整額(137億81百万円)を含む比率です。

組織概略

(株)フジテレビジョン
 (株)ビーエスフジ
 (株)ニッポン放送
 (株)仙台放送
 (株)扶桑社
 (株)共同テレビジョン
 (株)フジクリエイティブコーポレーション(FCC)
 (株)フジアール

(株)フジメディア・テクノロジー(FMT)
 (株)NEXTEP
 (株)ポニーキャニオン
 (株)フジパシフィックミュージック
 (株)フジゲームス
 (株)クオラス
 (株)ディノス・セシール

他

(株)サンケイビル
 (株)グランビスタホテル&リゾート

他

(株)フジミック
 (株)フジキャリアデザイン
 Fujisankei Communications International, Inc.(FCI)

他

※財務情報の詳細は、当社ホームページの株主・投資家情報をご覧ください。
<https://www.fujimediahd.co.jp/ir/presentation.html>

関連会社: (株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画放送(株) 他



会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
設立	1957（昭和32）年11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、 認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、 「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承 継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	7,493名
代表者	代表取締役会長 嘉納 修治 / 代表取締役社長 宮内 正喜

フジ・メディア・ホールディングス CSRレポート2019

- 対象期間
2018年4月1日 - 2019年3月31日
- 発行時期
2019年6月26日

ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。
<https://www.fujimediahd.co.jp/csr/>

フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室 ✉ csr.ss@fujitv.co.jp

 **フジ・メディア・ホールディングス**